

自分の安全はまず自分で守る 日ごろからの備えをしつかりと！

☆明日、大地震が起こるかも知れません

昨年発生した東日本大震災。多くの人に大きな爪痕を残した大震災は、松原市に住む私たちにとって決して他人事ではありません。市の周辺には、活断層が多く、その中でも最も大きな被害が予想される上町断層帯で地震が30年以内に発

生する確率は、2%から3%（平成19年 中央防災会議発表）。平成7年に発生した阪神淡路大震災で、0.2%から8%であったことを考えると、決していつ発生してもおかしくはないのです。さらに平成23年8月に実施した『松原市民のけが及び安心安全に関する実態調査アンケート』によると、69%もの世帯が震災などの自然災害

に不安を感じている反面、避難経路の把握や家具などの固定を実践している世帯は約30%程度、避難訓練への参加や防災マップの熟読が実践できている世帯は10%未満と、決して十分な備えができていないとは言えない現状がわかってきました。

☆地域防災訓練と地域の見守り活動を中心に取り組みを

セーフコミュニティ「災害時の安全対策委員会」では、アンケートによる災害への備えが不十分である現状を踏まえ、次のように優先して取り組む活動を決定しました。
●地域団体が中心となって取り組ん

でいる地域防災訓練への参加者や回数を増やし、災害に備えることの重要性を広めることで、備えへの実践を促していきます。
●災害発生時、一人で避難が困難な高齢者や障害者などの災害弱者を地域で把握し、少しでも災害に対する不安感が減少するように、地域の見守り活動を広げていく方向で検討を行っています。
問合せ 市民安全課

松原市で初めての試み 小学生と地域と一緒に防災訓練

6月3日(日)、市立松原東小学校にて、地域の安全確保と幼少期からの防災意識を高めることを目的に、防災に関わる多くの団体で構成する地域防災ネットワークプロジェクト協議会によって、防災訓練が実施されました。

訓練には、松原ライオンズクラブ、山崎製パン株式会社の後援のもと、小学生とその保護者、地域の団体など1,000人以上が参加し、避難訓練、煙中体験や心肺蘇生法・放水の実技、マンホールトイレや資器材の説明が行われました。

このような訓練は、セーフコミュニティ活動の一環として年に2、3の小学校で実施される予定で、将来の地域防災を担う人材を育成していきます。



▶放水体験

◎訓練参加者の感想

保護者と一緒に行くというこれまでにない訓練でとても役に立つ訓練でした。いざ行動すると、思ったより避難するまでの時間が長くなりました。



▶松原東小学校 生徒会役員 佐藤さん(写真左)と宗心さん(写真右)

今日の訓練をいかして、低学年にも教えていきたいと思えます。

大阪880万人訓練

Osaka 8.8million drill

9月5日(水) 午前11時実施決定!!

携帯電話の訓練緊急速報が一齐に鳴ります!

- 一人ひとりが身を守る行動や避難行動にチャレンジ
- 防災・減災を考えるきっかけに

HP 大阪880万人訓練 問 府民お問合せセンター ☎06(6910)8001